



Infor LN カレンダーユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	comccpug (U8746)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	7
カレンダーおよび期間の概要.....	7
依存関係.....	8
CCP とその他のモジュール間の関係.....	9
第2章 周期.....	11
例外の定義.....	11
手順.....	11
ローリング周期.....	12
シフトする時間数.....	13
ローリングが行われる時点.....	13
第3章 パターン.....	15
パターンを定義するには.....	15
パターンの定義.....	15
パターンの使用.....	16
固定納入パターンのためのパターン.....	17
第4章 カレンダー.....	19
カレンダーおよびシフト機能の概要.....	19
カレンダー使用構造.....	19
利用性タイプ.....	20
非利用性の定義.....	21
カレンダー構造とその設定.....	22
カレンダーの定義.....	23
カレンダーの使用.....	25
検索パス.....	25
LN のカレンダーデータ.....	25
従業員管理.....	25
倉庫管理.....	26
輸送.....	26
製造.....	26

プロジェクト.....	26
サービス.....	26
企業計画.....	26
財務会計.....	27
効率係数.....	27
効率係数の定義.....	27
効率係数の使用.....	28
生産能力.....	28
計算.....	28
生産能力を定義するには.....	29
第5章 カレンダー統合.....	31
外部スケジュールパッケージとのカレンダーの統合.....	31
プロジェクト.....	31
第6章 期間.....	33
期間の設定.....	33
期間テーブルの定義.....	33
使用する期間の生成.....	33
期間の定義.....	34
期間を使用するには.....	34
手数料およびリベートの期間.....	34
統計の期間.....	34
繰返生産の期間.....	34
プロジェクトの期間.....	34
従業員管理の期間.....	34
付録A 用語集.....	35
索引	

文書情報

このガイドでは、アプリケーション内でカレンダー、期間、周期、およびパターンを設定して使用する手順を説明します。

本書の対象

本書は、共通情報、従業員管理、プロジェクト、企業計画、販売、調達、製造、倉庫管理、およびサービスパッケージのマスタデータを扱うユーザを対象としています。財務会計は、独自のエンティティを使用して会計期間を定義します。

導入コンサルタント、製品設計者、サポート専門家などが対象となります。

本書の概要

本書には、次の章が含まれます。

- 概要
カレンダーおよび期間モジュールの役割を紹介します。このモジュールは、他のモジュールで使用するカレンダーおよび時間データを保存する重要なモジュールです。
- 周期
周期の定義方法および使用方法を説明します。周期は、「隔週の月曜日と金曜日」、「毎月27日」、「毎年1月1日」など、日付の繰り返しパターンです。
- パターン
パターンの定義方法および使用方法を説明します。パターンは、アクティビティを行う日、曜日、時間を定義するための体系です。
- カレンダーおよびシフト
カレンダーの定義方法および使用方法を説明します。カレンダーは、広い範囲の日付に渡って作業時間または開始時間を定義するものです。カレンダーを使用して、従業員、ワークセンタ、倉庫の作業時間を定義したり、納入計画に必要となる取引先の作業日および作業時間に関する情報を定義します。
従業員のチームの作業時間を指定するために、カレンダーのシフトを定義します。
- カレンダー統合
カレンダーおよび期間モジュールと外部パッケージの統合を設定する方法について、情報を提供します。
- 期間
期間の定義方法および使用方法を説明します。期間は、一年が週、月、四半期などの定期的な間隔に分割するものです。

本書の使い方

本書は、オンラインヘルプトピックから作成されたものです。そのため、他のセクションへの参照は、次のように表示されます。

詳しくは、「概要」を参照してください。参照先のセクションを見つけるには、目次を参照するか、文書の最後にある索引を使用してください。

用語のように表示されている語には、用語集の定義へのリンクが設定されています。本書をオンラインで表示する場合は、下線の付いた用語をクリックすると、巻末の用語集の定義が表示されます。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

カレンダーおよび期間の概要

このトピックでは、カレンダーおよび期間モジュールの概要を示します。

カレンダーおよび期間モジュールでは、LN パッケージ全体で使用するカレンダーおよび時間パターンを定義できます。

コンセプト

カレンダーおよび期間モジュールでは、次のタイプのデータを定義でき、LN のその他の部分で 사용할ことができます。

コンセプト	記述
<u>周期</u>	周期は、「隔週の月曜日と金曜日」、「毎月 27 日」、「毎年 1 月 1 日」など、日付の繰り返しパターンです。 周期は、パターンやカレンダーを構築するために使用されます。 従業員管理パッケージの割当てで周期を使用できます。
<u>パターン</u>	アクティビティを行う日、曜日、時間を定義するための体系です。パターンは、周期、例外、時刻の組合せを使用して定義します。 オーダ管理パッケージおよび企業計画パッケージでは、パターンを使用して、納入時、出荷時、および<u>固定納入パターン</u>が定義されます。
<u>カレンダー</u>	カレンダーは、広い範囲の日付に渡って作業時間または開始時間を定義するものです。また、効率性や生産能力に関連するデータもカレンダーに記録できます。

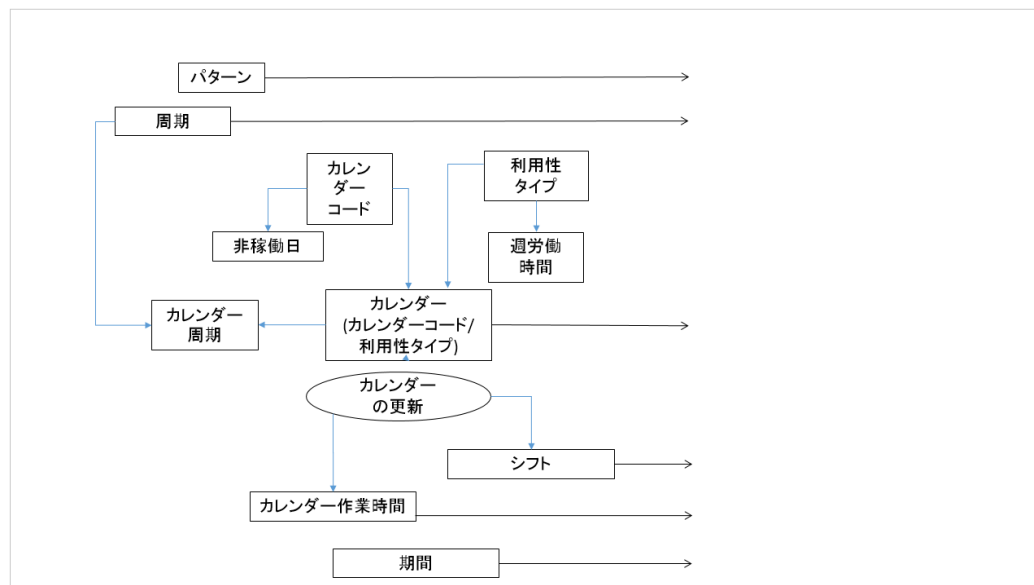
	カレンダーを使用して、従業員、ワークセンタ、倉庫の作業時間を定義したり、納入計画に必要な取引先の作業日および作業時間に関する情報を定義します。
シフト	従業員のチームの作業時間を指定するために、カレンダーのシフトを定義します。
期間	期間は、一年が週、月、四半期などの定期的な間隔に分割するものです、 特に販売パッケージ、調達パッケージおよびプロジェクトパッケージにおいて、統計、財務会計、時間会計、計画、原価管理などの目的に使用されます。

依存関係

このモジュールの構造をわかりやすくするため、コンセプト間の依存関係の一部を下記で説明します。

- パターンは、1 つまたは複数の周期に基づきます。
- カレンダーは、カレンダーコードと利用性タイプに基づきます。カレンダー周期および使用不能期間と併せて、個々の特定日の作業時間を定義します。
- これらのカレンダー定義は、各曜日の作業時間のリストであるカレンダー作業時間の生成に使用されます。これらの時間は、特に計画の目的で他のパッケージにより使用されます。
- シフトはカレンダーの作業時間に基づき、従業員のチームの作業時間を定義します。

次の略図において、外向きの矢印はカレンダーおよび期間外で利用可能な情報を表します。



カレンダーおよび期間内の関係の略図

CCP とその他のモジュール間の関係

カレンダーおよび期間モジュールで定義したデータは、次のLNパッケージとモジュールで使用されます。

- 周期
従業員管理では、割当 (bpmdm0130m000) セッションで従業員の割当に周期を使用します。
- パターン
調達では、資材発行のスケジュール出庫日および出荷スケジュールに関してパターンが使用されます。詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュール処理の概要。
調達では、倉庫、購買元取引先、出荷元取引先、および品目にリンクされた納入パターンとしてもパターンが使用されます。詳細は、次の情報を参照してください: 計画納入日時の使用。
企業計画では、固定納入パターンとしてパターンを使用します。販売業者管理在庫 (VMI) 状況では、条件モジュールで必要なパターンを指定できます。詳細は、次の情報を参照してください: 企業計画での固定納入。
- カレンダーおよびカレンダー作業時間
カレンダーは、カレンダーコードと利用性タイプの組み合わせにより識別されます。
共通情報では、会社、企業単位、取引先、住所にカレンダーをリンクできます。調達および販売では、商品転送の計画時にこの情報が使用されます。

従業員管理モジュールでは、従業員のチームにカレンダーをリンクできます。従業員管理パッケージの時間および経費モジュールでは、この情報を使用して、カレンダーラインからデフォルトの時間数を取得します。

製造では、ワークセンタおよび製造部署にカレンダーをリンクできます。ワークセンタにリンクされたカレンダーのカレンダー作業時間により、利用可能な製造能力が決まります。

倉庫管理では、倉庫にカレンダーをリンクできます。

サービスでは、カレンダーを使用して、クラスタがいつサービスに利用可能であるかを指定するとともに、サービスアクティビティを行うためにいつサービス部署が利用可能かを定義します。

- シフト

製造では、繰返生産製造にシフトを使用できます。

- 期間

販売の手数料およびリベートモジュールでは、販売担当者および販売業者の手数料と顧客のリベートの算出に期間が使用されます。

調達および販売の統計モジュールでは、統計分析に期間が使用されます。

製造の繰返生産モジュールでは、期間を使用して、繰返生産過程を編成します。

プロジェクトのプロジェクト進捗モジュールでは、期間を使用して、原価管理期間を定義します。

従業員管理では、予算編成および時間会計に期間を使用します。

注意

財務会計では、カレンダーおよび期間は使用しません。財務会計は、独自のエンティティを使用して会計期間を定義します。

例外の定義

例外は次の 2 つの目的で使用できます。

- カレンダーを定義するために使用するカレンダー例外を作成するための構成要素として。詳細については、カレンダーの定義 (ページ 23)を参照してください。
- 従業員管理の割当 (bpmdm0130m000) セッションで従業員の割当を定義するため

手順

カレンダー例外を定義するには、次の手順を実行します。

1. 周期 (tcccp0143m000) セッションを開始します。
2. 新しい周期を挿入します。
[周期タイプ] フィールドで、周期頻度が定義される基準期間を選択します。このフィールドでは、[年次]、[月次]、[週次]、[日次] のいずれかを選択できます。
[周期開始日] フィールドと [周期終了日] フィールドに、周期が有効である日付の範囲を定義します。周期の有効性を伸ばす方法については、ローリング周期 (ページ 12)を参照してください。
3. 周期詳細 (tcccp0143s000) セッションを開くには、周期をダブルクリックします。
4. 周期詳細を入力します。詳細については、セッションのオンラインヘルプを参照してください。

次のタイプの周期を定義できます。

- [年次]
[周期タイプ] フィールドが [年次] の場合、1 年または数年後に周期が繰り返されます。
次の方法で日付を選択できます。
 - 月と日付 (月) のセットを指定します。たとえば、11 月、12 月、1 月、および 2 月の 5 日のように指定します。
 - 月と曜日 (金曜日など) のセットを指定し、さらにその月の第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、最終週のいずれが選択されているのかを指定します。たとえば、2 月と 8 月の最終水曜日のように指定します。

- [月次]
[周期タイプ] フィールドが [月次] の場合、1 か月または数か月後に周期が繰り返されます。
次の方法で日付を選択できます。
 - 曜日 (金曜日など) を指定し、さらにその月の第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、最終週のいずれが選択されているのかを指定します。たとえば、その月の最終水曜日のように指定します。
 - その月の日付のセットを指定します。たとえば、その月の 10 日、20 日、および 30 日のように指定します。
- [週次]
[周期タイプ] フィールドが [週次] の場合、1 週間または数週間後に周期が繰り返されます。
該当する曜日を指定します。たとえば、毎週日曜日と土曜日のように指定します。
- [日次]
[周期タイプ] フィールドが [日次] の場合、1 日または数日後に周期が繰り返されます。たとえば、40 日おきのよう指定します。

注意

- 31 日を指定した場合、31 日に満たない月では、LN はその月の最後の日を選択します。
- 29 日または 30 日を指定し、2 月が含まれる場合、LN は 2 月の最後の日を選択します。

ローリング周期

このトピックでは、ローリング周期にすることで、周期の寿命を延ばす方法について説明します。

周期には、その周期が有効になる開始日と有効でなくなる終了日が定義されています。ローリング周期の場合、常に同じ周期定義を再利用できます。周期をローリングした場合、指定されている長さの時間だけ、周期の開始日と終了日が先送りされます。

例

周期開始日が 2009 年 1 月 1 日、終了日が 2011 年 1 月 1 日とします。

この周期を 51 週先にローリングした場合、結果は次のようになります。

	[周期開始日]	[周期終了日]
ローリング前	2009-01-01	2011-01-01
ローリング後	2009-12-24	2011-12-24

この例の詳細については、このトピックで後述します。

シフトする時間数

周期をローリングした場合、LN では、周期の開始日、終了日、参照日が、所定の時間数だけ先にシフトされます。

LN でこれらの時間が先にシフトされる時間数は、次の公式に従って計算されます。

$$A = B \times F \times I$$

公式内のコードの定義は次のとおりです。

- A - シフトされる時間数
- B - [週次] など、[周期タイプ] で指定される時間の長さ
- F - [頻度]。パターンが繰り返されるまでの日数、週数、月数、または年数
- I - [ローリング間隔:] フィールド ([間隔] フィールドとも呼ばれます) の値

注意

周期タイプが [月次] の場合、LN では、周期開始日はその月の同じ日にシフトされます。

たとえば、それまでの開始日が 3 月 30 日で、周期を 3 か月シフトした場合、開始日は 6 月 30 日になります。したがって、シフト日数は 92 日になります。

それまでの終了日が 9 月 1 日であった場合、終了日も 92 日間シフトし、12 月 2 日になります。

ローリングが行われる時点

ローリング処理を開始できるのは、周期詳細 (tcccp0143s000) セッションの [参照日] フィールドがはるか以前の日付であり、参照日が将来の日付にシフトしない場合だけです。このため、できる限り早い機会に周期がローリングされた場合、ローリング処理によって参照日が現在の日付にシフトします。

ローリング処理を開始するには、次のいずれかの方法を選択します。

- ローリング周期に基づく カレンダー を更新します。カレンダーを更新するには、カレンダー作業時間の更新 (tcccp0226m000) セッションを使用します。
- パターン時に周期をローリングします。
 - a. パターン時の生成 (tcccp0295m000) セッションを開始します。
 - b. 特定のパターンまたはパターンの範囲を選択します。
 - c. [周期のローリング] チェックボックスをオンにします。
 - d. パターン時の生成を開始するために、[生成] をクリックします。
- マニュアルで周期をローリングします。
 - a. 周期 (tcccp0143m000) セッションを開始します。
 - b. 周期詳細 (tcccp0143s000) セッションを開くには、周期をダブルクリックします。
 - c. [周期のローリング] をクリックします。

注意

- 従業員管理で周期からの日付を取得して割当 LN を作成する場合、では、周期を自動的にローリングしません。

- ローリング処理では、参照日は以前の日付または現在の日付にシフトされます。参照日はるか過去の日付である場合、参照日付を将来の日付にシフトすることなく、可能な限り頻繁にローリング処理が自動的に繰り返されます。

例

この例は以前の例と同じですが、この例にはさらに多くの詳細が含まれています。

周期が次のように定義されているとします。

- [周期開始日] = 2009-01-01
- [周期終了日] = 2011-01-01
- [参照日] = 2009-04-01

周期タイプは [週次] で、頻度は 1 とします。

[ローリング間隔:] フィールド ([間隔] フィールドとも呼ばれます) は 51 とします。このため、周期は 51 週シフトすることになります。

周期をローリングするもっとも早い機会は参照日から 51 週後、つまり 2010 年 3 月 24 日になります。

それでは、2010 年 3 月 24 日に周期をローリングしたとします。そのときの影響を次の表に示します。

	[周期開始日]	[参照日]	[周期終了日]
ローリング前	2009-01-01	2009-04-01	2011-01-01
ローリング後	2009-12-24	2010-03-24	2011-12-24

パターンを定義するには

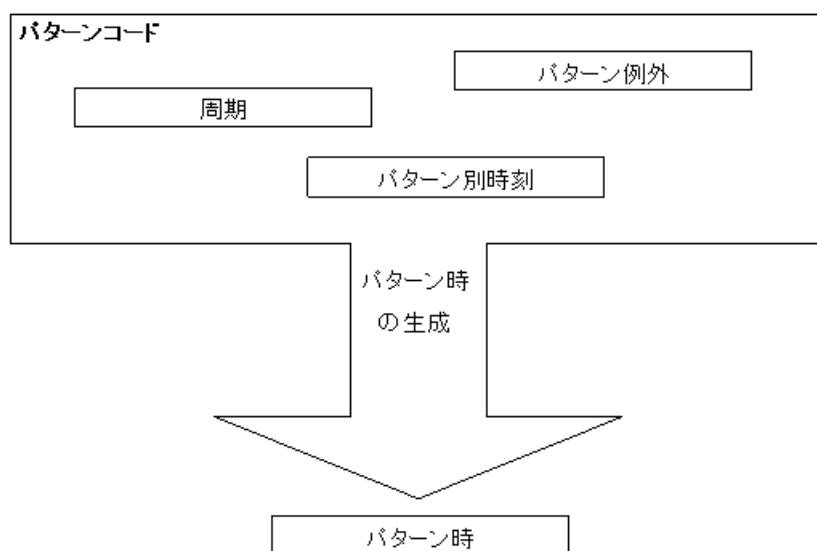
パターンの定義

前提条件

パターンを定義する前に、パターンの基準となる周期を定義する必要があります。詳細については、例外の定義 (ページ 11)を参照してください。

パターンを作成するには

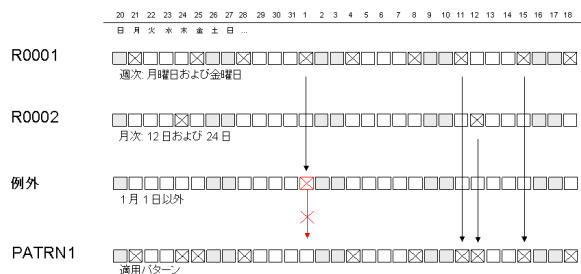
パターンは、次の図に示すように、1つまたは複数の周期に基づくパターン時、パターン例外、および時刻から構成されます。



パターンのパターン時の生成

周期を結合するには

次の図に示すように、複数の周期を結合することができます。



周期および例外のパターンへの結合

この図では、パターン PATRN1 は R0001 と R0002 の 2 つの周期に基づいています。

- 周期 R0001 は毎週月曜日と金曜日を選択します。
- 周期 R0002 は毎月 12 日と 24 日を選択します。

PATRN 1 には 1 つ例外があり、毎年 1 月 1 日は除外されます。

手順

パターンを定義するには、次の手順を実行します。

1. 周期を定義します。詳細については、例外の定義 (ページ 11)を参照してください。
2. パターン (tcccp0190m000) セッションを使用して、パターンコードを定義します。
3. パターン (tcccp0190m000) セッションを使用して、パターンに周期を追加します。
4. パターン別時刻 (tcccp0193m000) セッションを使用して、時刻を指定します。時間は現地時間と定義され、タイムゾーンは未指定です。
5. パターン例外 (tcccp0192m000) セッションを使用して、必要な例外を指定します。
6. パターン時の生成 (tcccp0295m000) セッションを使用して、パターン時を生成します。

生成されたパターン時を表示するには、パターン時 (tcccp0195m000) セッションを使用します。

パターンの使用

固定の発注先からの購買品目の定期出荷をまとめるには、購買スケジュールを使用できます。

オーダ管理では、資材発行のスケジュール出庫日および出荷スケジュールにパターンを使用します。

固定納入パターンのためのパターン

毎週月曜日の午前 11:00 など、特定の日付の特定の時間に会社へのすべての納入を行うように指定するには、固定納入パターンを作成できます。固定納入パターンは、カレンダーおよび期間モジュールで定義するパターンに基づきます。

オーダー管理では、倉庫、購買元取引先、出荷元取引先、および品目にパターンをリンクできます。詳細については、計画納入日時の使用を参照してください。

企業計画では、計画オーダーの計画時にこれらのパターンを使用します。

販売業者管理在庫 (VMI) 状況では、条件モジュールで必要なパターンを指定できます。

カレンダーおよびシフト機能の概要

カレンダーおよび期間モジュールでは、LN のすべての部分について、カレンダーを定義および編成できます。

LN のカレンダーで、資源が利用可能な時間が設定されます。

例

- 製造オーダーは、ワークセンタ AA で午前 6 時から午後 5 時まで計画できます。
- 販売オーダーは、倉庫 XY で午前 7 時から午後 6 時までピッキングおよび発送できます。

カレンダーは次の組み合わせで構成されます。

- カレンダーコード
作業可能日のリストを識別します。
カレンダーコードは、期間の開始日と終了日を定義します。非稼働日 (tccccp0119m000) セッションで指定された日を除き、範囲内の日は稼働日にできます。
カレンダーコードは階層構造になっています。親カレンダーコードが、子カレンダーのデフォルトの日付を提供します。詳細は、次の情報を参照してください: カレンダーコード階層。
- 利用性タイプ
利用性タイプは一般的な週労働時間を定義します。7 日のそれぞれについて、作業時間の開始および終了時間が指定されます。

注意

ID が一意となる限り、カレンダーコードと利用性タイプは複数回組み合わせることができます。

カレンダー使用構造

LN のカレンダーは柔軟に使用できます。1 つのカレンダーに基づいて会社全体の計画を立てることも、各種資源 (ワークセンタ、販売オフィス、従業員) に個別のカレンダーを定義して時間を個々に計画することもできます。

組織のさまざまなレベルにカレンダーをリンクできます。会社カレンダーは、階層の上部にあるもっとも一般的なカレンダーです。企業単位、部署、ワークセンタ、倉庫、および従業員のカレンダーはより限定的になります。

会社カレンダーには、組織全体の稼働日、休日、作業時間が記録されます。納入計画には、取引先および住所にカレンダーをリンクしてください。詳細は、次の情報を参照してください: カレンダーの使用 (ページ 25)。

カレンダーに含まれる日付内の各作業時間間隔について、次のことを指定できます。

- 開始時間と終了時間
- 作業時間タイプ (オプション)
- 効率係数
- 生産能力
- 超過時間

利用性タイプ

利用性タイプは週労働時間を定義します。7日の稼働日それぞれについて、セッションで定義されている作業時間タイプの開始および終了時間が指定されます。

例

会社には、次の標準作業時間が定義されています。

- 製造部門は 8.00 から 18.00 まで稼働します。
- 倉庫は 8.00 から 16.00 まで開いています。
- サービス部署は 9.00 から 18.00 まで活動しています。

この状況は1つのカレンダーコード (COMP) でモデル化でき、このカレンダーに PRD (製造)、WHS (倉庫)、SRV (サービス) の3つの利用性タイプを定義します。

次のカレンダーが生成されます。

- COMP/PRD
- COMP/WHS
- COMP/SRV

例

1つの会社には3つの部署があります。製造、倉庫、サービスです。

3つすべての作業時間は同じ (08:00 - 17:00) ですが、休日は部署により異なります。

この状況は1つの利用性タイプ (STDHRS) と3つのカレンダーコード (PRD、WHS、SRV) でモデル化できます。

次のカレンダーが生成されます。

- PRD/STDHRS
- WRH/STDHRS
- SRV/STDHRS

この他に、部署に共通の、すべての稼働日と休日を含むカレンダーコードを会社 (COMP) に定義することもできます。PRD、WRH、および SRV カレンダーは COMP カレンダーを親カレンダーとして持つでしょうが、部署に特定の休日しか含みません。

注意

- その他のパッケージでの利用性タイプの使用の詳細については、カレンダーの使用 (ページ 25) を参照してください。
- 外部スケジュールパッケージでは、複数の利用性タイプを使用することはできません。外部スケジュールパッケージと統合する場合は、アクティビティごとに個別にカレンダーを定義する必要があります。詳細は、次の情報を参照してください: 外部スケジュールパッケージとのカレンダーの統合 (ページ 31)

非利用性の定義

非利用性とは、その理由を問わず、カレンダーの特定の日付において製造が計画できないことを指します。カレンダーを定義する場合は、非利用性のいくつかのタイプについてや、それがどのように計画に影響するかについてを考慮する必要があります。

カレンダーに非利用性を定義するには、次のセッションを使用します。

- 周期的な非利用性
国民の祝日などの周期的な非利用性については、周期 (tcccp0143m000) セッションで周期を定義します。カレンダー例外 (tcccp0144m000) セッションでこの周期を適用可能なカレンダーコードおよび利用性タイプに追加し、使用不能期間について [利用可能] チェックボックスをオフにします。
カレンダー周期により、カレンダーに周期的な例外を定義することと、使用不能期間の日次、週次、月次、または年次の時間スケジュールを設定することを1回のアクションで行うことができます。
- 特定のカレンダーコードを使用した、すべてのカレンダーにおける使用不能期間
職場旅行のような偶発的な使用不能期間を定義するには、非稼働日 (tcccp0119m000) セッションを使用します。ここで定義したものは、このカレンダーコードを使用するすべてのカレンダーに適用されます。
- 特定のカレンダーに対する使用不能期間
特定の日について非利用性を定義するには、次の手順を実行します。
 - a. カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションを開始します。
 - b. 適用可能なカレンダーを探し、目的の日の間隔について [利用可能] チェックボックスをオフにします。

非稼働日 (tcccp0119m000) セッションまたはカレンダー例外 (tcccp0144m000) セッションで利用不能期間を定義した場合は、カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションで [カレンダーの更新] をクリックします。

注意

特定の日を使用不能にするカレンダー周期であっても、親カレンダーでのその日の利用性にはまったく影響はありません。

カレンダー構造とその設定

週労働時間と会社カレンダーによる基本的な時間管理から、特定のタスクにおける詳細なカレンダーまで、1つの会社で複数のカレンダーを使用できます。会社が必要とする詳細に応じて、複数のカレンダーコード、利用性タイプ、および週労働時間で構成される階層構造を設定できます。

- **週労働時間**
週労働時間 (tcccp0105m000) セッションで、週労働時間および稼働日 (tcccp0130m000) セッションでその稼働日を定義できます。週労働時間は利用可能時間を指定し、複数の方法で定義できます。正規時間、2 シフト週、および休日を定義できます。
日付有効週労働時間 (tcccp0106m000) セッションで特定の期間の週労働時間を定義できます。
- **カレンダーコード**
すべてのカレンダーコードには有効な決まった時間枠があります。子カレンダーコードは、親カレンダーの時間枠に依存します。子カレンダーは、親カレンダーの時間枠を超えることはできません。つまり、子カレンダーの開始日を親カレンダーの開始日より以前に設定することはできず、また子カレンダーの終了日を親カレンダーの終了日より以降に設定することもできません。
- **利用性タイプ**
カレンダー利用性タイプ (tcccp0150m000) セッションで、カレンダーコードを利用性タイプにリンクできます。詳細は、次の情報を参照してください: 利用性タイプ (ページ 20)
- **カレンダー作業時間**
カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションでは、それぞれの日付について有効なカレンダー詳細を表示できます。特定の日付の詳細が親カレンダーまたは週労働時間カレンダー、あるいはカレンダー例外から派生している場合、[派生元] フィールドは [親]、[週労働時間]、または [例外] になります。
カレンダーでは、8:00-12:00 や 13:00-17:00 など、複数の作業時間を 1 日に割り当てることができます。ただし、すべての労働時間は1つのソースから派生している必要があります。
カレンダーにおける特定の日付について、労働時間には次のものがあります。
 - 週労働時間から派生したもの
 - 親カレンダーから派生したもの
 - カレンダー例外から派生したもの
 - 計画にその日付が使用不可である場合、非稼働日 (tcccp0119m000) セッションから派生したもの
 - マニュアル指定
 - **カレンダー検索パス**
計画処理で特定の従業員またはその他の資源についてカレンダーが見つからない場合、LN では、部署、企業単位に定義されているカレンダーを検索し、最後に会社カレンダーを検索します。計画処理ではすべて、LN アプリケーションで定義されている、固定のカレンダー検索パスが使用されます。この検索パスは常に会社カレンダーで終わり、定義してある親カレンダーとは独立しています。

カレンダーの定義

カレンダーの構造を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1: カレンダーコードの定義

特定のカレンダーを定義するには、まずそのカレンダーの親カレンダーコード (該当する場合) を定義します。最初に会社のカレンダーコードを定義することをお勧めします。

ステップ 2: 利用性タイプの定義

利用性タイプ (tcccp0101m000) セッションを使用して、利用性タイプを定義します。[デフォルトで利用可能] チェックボックスによって、カレンダー例外 (tcccp0144m000) セッションおよび週労働時間 (tcccp0105m000) セッションの [利用可能] フィールドのデフォルトの設定が決まります。

利用性タイプがシフトを使用するかどうかを指定します。シフトを使用する場合、マスクをマスク (tcibd4102m000) セッションで定義して、シフトを生成する必要があります。

ステップ 3: カレンダー利用性タイプの指定

カレンダー利用性タイプ (tcccp0150m000) セッションで、利用性タイプをカレンダーコードにリンクできます。

ステップ 4: 作業時間タイプの定義 (オプション)

作業時間タイプ (tcccp0103m000) セッションを使用して、作業時間タイプを定義します。作業時間のデフォルト値、生産能力、効率係数、およびその時間が超過時間であるかどうかを表すコードを記録します。

作業時間タイプを使用する場合は、カレンダーパラメータ (tcccp0100m000) セッションで [作業時間タイプの使用] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5: 使用不能期間の入力

非稼働日 (tcccp0119m000) セッションで、偶発的な使用不能期間を指定できます。非稼働日はカレンダーコードに基づいて定義します。

ステップ 6: 週労働時間カレンダーの定義

週労働時間 (tcccp0105m000) セッションを使用して、該当する利用性タイプについて各曜日の作業時間を定義します。

シフトを生成するときに、シフト ID の作成に使用するマスクを指定します。シフト定義を見直すために、以下の内容を含む翌 2 週間のシフト詳細を示すレポートを印刷できます。各シフトの開始時間と終了時間、シフトあたりの正味時間、シフト ID (マスクにより定義)、および週末とその付近のシフトの定義方法。

ステップ 7: カレンダー例外の指定

以下のカレンダー例外のタイプを定義できます。

- 特定の周期的な日付について、作業時間、効率係数、能力利用率、および超過時間インジケータの変更。たとえば、毎月の最終金曜日に長い作業時間を指定します。
- たとえば、夜間に特定のワークセンタを開けるなど、利用可能日を追加できます。
- 毎年決まっている祝日など、特定の日付を使用不能として指定します。

特定のカレンダーについてこれらの日付を定義すると、カレンダー作業時間の定義にそれらの日付が使用されます。

ステップ 8: カレンダー作業時間およびシフトの更新

カレンダー作業時間の更新 (tcccp0226m000) セッション、またはカレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションの [カレンダーの更新] コマンドを使用して、すべてのカレンダー定義を組合わせてカレンダー作業時間およびシフトのリストを作成できます。

カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションおよびシフト (tcccp0102m000) セッションで、生成された結果を表示できます。

定義を変更するたびに [カレンダーの更新] を使用します。変更内容はすべて、更新を実行するまで利用できません。

ステップ 9: マニュアルでの変更

カレンダーに対して、次のマニュアル変更が可能です。

- 定義の変更
週労働時間を変更すると、カレンダー作業時間が変更されます。これらの変更は、カレンダーの更新後にのみ有効になります。
- カレンダー作業時間の変更
数日のみに影響する変更が必要な場合、カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションで直接カレンダー作業時間を調整できます。変更を有効にするために、カレンダーを更新する必要はありません。

ステップ 10: カレンダーの資源への割当

次のセッションを使用して、カレンダーを各種資源にリンクできます。

- 会社 (tcemm1170m000)
- 部署 (tcmcs0565m000)
- ワークセンタ (tirou0101m000)
- 倉庫 (whwmd2500m000)
- 取引先 (tccom4500m000)
- 住所 (tccom4530m000)
- 従業員 - 一般 (tccom0101m000)
- チーム (tcppl0140m000)

カレンダーの使用

カレンダー (カレンダーコード/利用性タイプ) を利用するには、資源にリンクする必要があります。カレンダーコードと利用性タイプの利用可能な組合せを表示するには、カレンダー利用性タイプ (tcccp0150m000) セッションを開始します。カレンダーコード別または利用性タイプ別にレコードをソートできます。

検索パス

LN のパッケージで何らかの資源についてカレンダーデータが必要になった場合、LN はその特定の資源に適用可能なカレンダーコードを検索します。その資源とリンクするカレンダーがない場合、LN は上位資源レベルのカレンダーを検索していき、最後は会社カレンダーを検索します。

たとえば、製造では、LN はワークセンタとカレンダーコードがリンクしているかどうかをチェックします。ワークセンタとリンクするカレンダーコードがない場合、LN は製造部署をチェックします。LN でカレンダーコードが見つからない場合は、計画は行われません。

注意

検索パスには、週労働時間は含まれません。目的の日付がすべて範囲とはならないカレンダーコードが見つかった場合、LN では週労働時間だけが使用されます。

LN のカレンダーデータ

この表は、もっとも一般的な資源にカレンダーをリンクする方法を示したものです。

作業内容...	使用するセッション...
会社カレンダーの定義	会社 (tcemm1170m000)
企業単位のカレンダーの定義	企業単位 (tcemm0130m000)
部署のカレンダーの定義	部署 (tcmcs0565m000)
従業員のカレンダーの定義	従業員 - 一般 (tccom0101m000)

以降のセクションでは、LN のさまざまな部分でのカレンダーの使用方法を示します。

従業員管理

従業員管理モジュールでは、従業員のチームにカレンダーをリンクできます。

詳細は、次の情報を参照してください: 従業員管理のカレンダー。

倉庫管理

倉庫管理では、カレンダーを使用して、倉庫の営業時間を指定できます。

LNにおける倉庫オーダーの計画納期および計画入庫日の計算方法については、カレンダー修正の決定LNでのカレンダー修正の決定方法を参照してください。

LNにおける時系列オーダーポイント (TPOP) または統計在庫管理 (SIC) を使用した倉庫の補充のための計画納期および計画入庫日の計算方法については、次のトピックを参照してください。

- オーダーを生成するには (時系列オーダーポイント)
- オーダー勧告を生成するには (統計在庫管理)

輸送

輸送では、カレンダーを使用して、出荷元住所または出荷先住所の営業時間を指定できます。

詳細は、次の情報を参照してください: カレンダータイムウィンドウ。

製造

それぞれのワークセンタは、カレンダーを持つことができます。ワークセンタにカレンダーがない場合、生産部署の必須カレンダーそのワークセンタの計画機能のデフォルトになります。

詳細は、次の情報を参照してください: 製造におけるカレンダーの働き。

プロジェクト

プロジェクトでは、従業員計画と設備計画に外部スケジュールパッケージを使用します。外部スケジュールパッケージは LN のカレンダーおよび期間からカレンダーデータを取得します。

詳細は、次の情報を参照してください: 外部スケジュールパッケージとのカレンダーの統合 (ページ 31)。

サービス

サービスでは、カレンダーを使用して、クラスタがいつサービスに利用可能であるかを指定するとともに、サービスアクティビティを行うためにいつサービス部署が利用可能かを定義します。

詳細は、次の情報を参照してください: サービスカレンダーを使用するには。

企業計画

計画処理において、企業計画では、ワークセンタや倉庫などにリンクしたカレンダーが使用されます。

製造能力の低下または増強をシミュレートするため、特定のシナリオ用に、デフォルトのカレンダーを別のものに置き換えることができます。これにより、シナリオごとに異なるバージョンの作業時間を作成できます。こうしたシナリオにより、機械を増やした場合の効果、あるいはメンテナンスのために機械の稼働を中止した場合の影響を分析できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 企業計画でのカレンダー。

財務会計

財務会計では、支払カレンダーを使用して、販売請求書および購買請求書の期日を決定できます。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 支払カレンダーを使用するには
- 支払カレンダーの設定

効率係数

効率係数を使用して、リードタイム計算の際に可変の日次能力を考慮に入れます。

日次能力の変動には、さまざまな理由が考えられます。たとえば、休暇シーズンの作業人員の減少や繁忙期の追加作業人員の雇用などにより、日によって利用可能な計画時間に多少の差が生じます。

注意

効率係数のデフォルト値は 1.0 です。

効率係数の定義

効率係数は、共通情報のカレンダーおよび期間モジュールでカレンダーを設定するときに定義できます。

宛先	使用
作業時間タイプにデフォルトの効率係数を定義する	作業時間タイプ (tcccp0103m000)
特定の曜日にデフォルトの効率係数を定義する	週労働時間 (tcccp0105m000)
周期的な日付に効率係数を定義する	カレンダー例外 (tcccp0144m000)
特定の日付のデフォルトの効率係数を上書きする	カレンダー作業時間 (tcccp0120m000)
複数のカレンダーと利用性タイプの効率係数を変更する	効率係数および能力の更新 (tcccp0225m000)

効率係数を変更した後は、以下の手順でカレンダーを更新する必要があります。

- カレンダー作業時間の更新 (tcccp0226m000) セッションを実行する
- カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションの [カレンダーの更新] をクリックする

効率係数を変更したら、カレンダー作業時間の更新 (tcccp0226m000) セッションを使用するか、またはカレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションで [カレンダーの更新] をクリックして、カレンダーを更新します。

特定の日付で有効な利用性係数を表示するには、カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションを使用します。必ずカレンダーを更新してください。

効率係数の使用

LN は効率係数を次の目的に使用します。

- 資源が平均よりも効率的に動作できる場合があることを考慮に入れる。たとえば、ある従業員が午後よりも午前中によく働く場合、時間間隔 09:00 - 12:00 のカレンダーラインに 1.1 の効率係数を入力できます。
- 作業を行うために追加資源を雇用した場合、作業のリードタイムが短くなることを考慮に入れる。

注意

効率係数と能力利用率を混同しないよう注意してください。

- 効率係数は、関連するカレンダーを使用したリードタイム計算の結果に影響します。この係数は作業の速さに影響します。
- 能力利用率とは、資源が利用されている割合を表す情報です。

生産能力

生産能力を使用して、ワークセンタの使用可能能力を日付別またはシフト別に変えることができます。たとえば、夜間勤務の方が昼間勤務の作業員の数が少ないワークセンタの場合、夜間シフトの生産能力を減らすことができます。LN では、ワークセンタ利用率のビューおよびレポートの計算に生産能力が適用されます。

注意

生産能力の値は、リードタイムの計算には影響を与えません。

計算

カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションの [生産能力詳細] タブには、次のフィールドがあります。

- [時間数]
[開始時間] フィールドと [終了時間] フィールドに基づきます。
- [生産能力]
割合は、ワークセンタの労働時間および効率係数に基づきます。
- [能力 [時間]]
[時間数] フィールドおよび生産能力に基づきます。[能力 [時間]] フィールドは、ワークセンタ利用率のビューおよびレポートの利用可能時間数のために入力されます。

生産能力を定義するには

作業時間タイプ (tcccp0103m000) セッションで、作業時間タイプの生産能力を定義します。

作業時間タイプの生産能力は、週労働時間 (tcccp0105m000) セッションおよびカレンダー例外 (tcccp0144m000) セッションでデフォルトの役割を果たします。

LN で能力利用率を計算するために使用される有効な生産能力を、カレンダー作業時間 (tcccp0120m000) セッションで表示し、マニュアルで指定できます。

外部スケジュールパッケージとのカレンダーの統合

カレンダーおよび期間モジュールには、外部スケジュールパッケージでカレンダーを利用できるようにするための機能が含まれています。

プロジェクト

プロジェクトでは、従業員計画と設備計画に外部スケジュールパッケージを使用します。外部スケジュールパッケージは LN のカレンダーおよび期間からカレンダーデータを取得します。

外部パッケージで利用できるようにしたいカレンダーをリスト表示するには、外部パッケージのカレンダー (tcccp0181m000) セッションを使用します。

外部スケジュールパッケージでは、複数の利用性タイプはサポートしていません。外部スケジュールパッケージについては、LN では、次の部分から構成されるカレンダー ID が作成されます。

- 親カレンダー (マルチレベル)
- カレンダーコード
- 適用可能な利用性タイプ

カレンダーパラメータ (tcccp0100m000) セッションの [ESP のデフォルト利用性タイプ] フィールドに、外部スケジュールパッケージに対する利用性タイプのデフォルト値を入力します。

さらに多くの利用性タイプを外部スケジュールパッケージで利用できるようにするには、外部パッケージのカレンダー (tcccp0181m000) セッションを使用します。

期間の設定

LN アプリケーションで使用する期間の設定には、次の手順が含まれます。

- 期間テーブルの定義
- 使用する期間の生成
- 期間の定義

期間テーブルの定義

期間テーブル (tcccp0160m000) セッションを使用して、期間テーブルを作成およびメンテナンスします。

期間テーブルは、次の点などについて属性が共通する期間ごとにグループ分けする場合に使用されます。

- ある期間に関して定義された日付が定義済のカレンダー年度に含まれているかを LN でチェックするか
- 現在使用中の期間テーブルを含む期間を修正してもよいか
- 現在使用中の期間テーブルを含む期間を削除してもよいか
- 年度間に空白期間が発生してもよいか

LN アプリケーションでは、期間テーブルを参照することによって、ユーザが定義した期間情報を使用します。

使用する期間の生成

期間の生成 (tcccp0270m000) セッションを使用して、期間テーブル (tcccp0160m000) セッションで作成した期間テーブルに基づいてデフォルトの期間を生成します。

これによって生成された期間は、期間の詳細情報を定義するための期間 (tcccp0170m000) セッションで利用できます。

期間の定義

期間 (tcccp0170m000) セッションを使用して、期間をメンテナンスします。各期間は、それぞれが共有する属性を含む期間テーブルにリンクされます。各期間に次を定義します。

- 期間が適用される年
- 期間の開始日と終了日

期間を使用するには

このトピックでは、期間をどこでどのように使用するかについて説明します。

手数料およびリベートの期間

販売の手数料およびリベートモジュールでは、販売担当者および販売業者の手数料と顧客のリベートの計算に期間が使用されます。

統計の期間

調達および販売の統計モジュールでは、統計分析に期間が使用されます。統計パラメータ (tdsta0100m000) セッションの [期間テーブル] フィールドに、期間テーブルを指定できます。

繰返生産の期間

製造の繰返生産モジュールでは、期間を使用して、繰返生産過程を編成します。繰返生産パラメータ (tirpt0100m000) セッションで、生産日程計画の期間テーブルを指定できます。

プロジェクトの期間

プロジェクトのプロジェクト進捗モジュールでは、期間を使用して、原価管理期間を定義します。

従業員管理の期間

従業員管理では、予算編成および時間会計に期間を使用します。

注意

財務会計では、カレンダーおよび期間は使用しません。会計期間の定義に、財務会計では固有のエンティティを使用します。

会社

ロジスティック取引または会計取引を実行する作業環境。すべての取引データは、特定の会社のデータベースに保存されます。

管理するデータのタイプによって、次の会社に分けられます。

- ロジスティック会社
- 財務会社
- ロジスティック会社であり財務会社でもある会社

複数サイト構造では、各種データベーステーブルの内いくつかを特定の会社専用として、それ以外のデータベーステーブルを他の会社と共有することができます。

カレンダー

カレンダー作業時間のリストを構築するために使用される定義の組合せ。カレンダーは、カレンダーコードと利用性タイプの組合せにより識別されます。

従業員

従業員のうち、営業担当者、製造計画担当者、購買担当者、信用アナリストといった特定の役割を持つ人

割当

時間ラインが定義されているタスク。たとえば、毎週行われる会議など

販売請求書

商品またはサービスの販売に関連する請求書。販売請求書は各販売について販売元から購買担当に送付される文書で、販売される商品の詳細が含まれます。

購買請求書

在庫に入庫済、検査済(必要な場合)、および転記済の購買商品が購買請求書に記載されます。請求書の数量について購買元取引先に支払う必要があります。

購買元取引先、オーダ、品目データ、価格および値引は請求書に出力されます。請求書のデータと購買元取引先から受け取った請求書を比較することができます。

リベート

販売オーダーのクローズに対する値引の一種として販売先取引先に支払われる金額

能力利用率

1 つの資源が生産のために使用される時間数

あるいは、使用能力を合計使用可能能力の比率として示す割合

効率係数

残業、技術者の追加採用、異なるシフトでの勤務などに関して、特定資源の利用性の変動を日ごとの差異で考慮するために使用される変数。たとえば、あるプロジェクトの利用可能な時間が 8 時間で、ある従業員がその中で 6 時間作業する場合、効率係数は 0.75 になります。

効率係数は、企業計画でのリードタイム計算に影響します。

計画オーダー

企業計画の供給オーダーの 1 つ。計画目的で作成され、まだ実際のオーダーにはなっていないものです。

企業計画は、以下のタイプの計画オーダーを扱います。

- 計画製造オーダー
- 計画購買オーダー
- 計画物流オーダー

計画オーダーは、特定のシナリオを使用して生成されます。実際のシナリオの計画オーダーは、実行レベルに転送すると、実際の供給オーダーにすることができます。

シナリオ

総合的な計画解決策の識別

各シナリオは、1 つの総合的な計画解決策を表していて、品目計画および資源計画のための特定の設定が含まれています。シナリオを使用して、各種の計画オプションを分析および比較し、最適な計画解決策を見つけることができます。たとえば、需要予測やソーシング戦略の変更に利用できます。

シナリオの 1 つは、実際の計画状況に対応している実際のシナリオです。実際のシナリオから LN の実行レベルへ、計画オーダーと製造計画を転送することのみが可能です。

固定納入パターン

反復する固定納入時期のスケジュール

企業計画は、カレンダー周期を使用して固定納入パターンを作成します。

倉庫

商品を収容する場所。各倉庫に対して、住所データおよびそのタイプに関するデータを入力できます。

リードタイム

製造開始日から納期までの時間。リードタイムには、オーダーの準備時間、輸送時間、検査時間を含めることができます。

倉庫オーダー

倉庫内の商品进行处理するオーダー

倉庫オーダーは次のいずれかの在庫処理タイプになります。

- [入庫]
- [出庫]
- [転送]
- [仕掛品振替]

オーダーには、それぞれ発生元があります。また、倉庫処理に必要なすべての情報が含まれています。品目 (ロット品目または非ロット品目) および倉庫 (保管場所の有または無) に応じて、ロットや保管場所を割り当てることができます。オーダーは、事前定義された倉庫手順に従います。

注意

製造では、倉庫オーダーを Warehousing Order、または Warehouse Order といいます。

同義語: 倉庫オーダー

倉庫オーダー

次を参照してください: 倉庫オーダー (ページ 37)

発注先

次を参照してください: 購買元取引先 (ページ 40)

購買スケジュール

資材の計画供給のタイムテーブル。購買スケジュールは、頻繁に納入される長期の購買をサポートし、通常、購買契約によって支援されます。品目、購買元取引先、出荷元取引先、購買オフィス、および倉庫が同じである要求はすべて、1 つのスケジュールに保存されます。

販売業者管理在庫 (VMI)

発注先がそれぞれの顧客や外注先の在庫を管理する際に通常従う在庫管理方法です。また、発注先は供給計画も管理している場合があります。他にも、在庫は顧客が管理し、供給計画は発注先が担当している場合もあります。在庫管理や在庫計画は、ロジスティックサービスプロバイダ (LSP) に外注することもできます。

発注先が納入する在庫は、発注先、または顧客が所有します。多くの場合、在庫の所有権は顧客が在庫を消費する際に発注先から顧客に変更されますが、契約で規定されている時期に所有権の移行が生じることもあります。

販売業者管理在庫は、計画や資材の調達に関連する内部コストを削減できるほか、販売業者はサプライチェーンを明確に把握しながらそれぞれの在庫をよりよく管理できます。

利用性タイプ

資源が利用可能であるアクティビティのタイプを表すコード。利用性タイプにより、単一のカレンダーに複数の作業時間セットを定義できます。

たとえば、製造には月曜日から金曜日まで利用可能で、サービスアクティビティには土曜日が利用可能であるワークセンタの場合、製造に 1 つとサービスアクティビティに 1 つの合計 2 つの利用性タイプを定義し、そのワークセンタのカレンダーにこの 2 つの利用性タイプをリンクさせることができます。

マスク

識別コードの構成を示すテンプレート。マスクは、カレンダー作業時間の更新 (tccccp0226m000) のいずれかのセッションを通じてシフトの ID を生成するために使用します。

次を参照してください: マスクセグメント

ワークセンタ

同じ能力を持つ、1 人以上の従業員または 1 台以上の機械から構成される特定の製造エリア。これは、能力所要量計画と詳細スケジュールの 1 単位と見なすことができます。

統計在庫管理

在庫を補充するための計画購買オーダーまたは計画製造オーダーを生成する LN のオーダーシステム

発注点は通常、在庫バッファおよびリードタイムの補充時の予測所要量を加えて計算します。

統計在庫管理品目の計画は倉庫管理によって行われます。

略字: SIC

時系列オーダーポイント

次を参照してください: 時系列オーダーポイント (TPOP) (ページ 43)

期間

期間によって、一年が週、月、四半期などの定期的な間隔に分割され、統計、時間会計、計画、原価管理などの目的に使用できます。

パターン

発行や納入などの活動を実行したい曜日、日にち、時間を定義する方法

周期

「隔週の月曜日と金曜日」、「毎月 27 日」、「5 年ごとの 6 月の最初の月曜日」など、日付の繰り返し

シフト

生産作業人員はシフトで整理できます。もっとも一般的なモデルは 1、2、または 3 シフトモデルですが、いくつかの曜日に異なるシフトを割り振るような、より複雑なモデルも可能です。

シフトには以下のプロパティがあります。

- 一意に識別するための一意のキー
- キーはマスクに基づいて自動的に生成されます。
- 開始日、終了日および終了時間
- シフトの正味時間

注意

開始日および時間がある過去のシフトは削除できません。

生産能力

ワークセンタ利用率を表示およびレポートするための基本となる利用可能な製造能力の割合。たとえば、ワークセンタの作業時間が 06:00 - 16:00 (10 時間) の場合、効率係数は 1.0、生産能力は 80% になります。8 時間の製造オーダーの実行が、生産能力 100% に相当します。

デフォルトの生産能力は 100% です。

週労働時間

利用可能および利用不可能な時間を定義する、週の 7 日間

取引先

顧客または発注先などの、商取引を行う当事者。顧客や発注先となる部署を組織内で取引先として定義することもできます。

取引先の定義には次の情報が含まれます。

- 組織の名前と主要な住所
- 使用される言語と通貨
- 課税および法定 ID データ

取引先の担当窓口担当者を取引先とします。取引先の状況によって、処理が実行可能かどうかが決まります。処理のタイプ (販売オーダー、請求書、支払、出荷) は取引先の役割で定義します。

手数料

販売オーダーをクローズしたことに對し、従業員 (販売担当者) または購買元取引先 (代理店) に支払われる金額

超過時間

正規の作業時間を超過して作業した時間

次の目的で超過時間を使用できます。

- 正規の作業時間中にメンテナンスできないオブジェクトに対してメンテナンスアクティビティを実施する
- 製造能力を上げる

繰返生産

デフォルトソースが [繰返生産] の品目のことで、定義済の構成に基づいて作成されます。

繰返生産に最適な品目は次のとおりです。

- 標準品目
- 原価が低い品目
- バリエーションが最小限の品目
- 複雑な品目
- 部品表 (BOM) が平準な品目

半組立品としての両方の完成品は、繰返生産を使用して製造できます。

注意

需要ペギングおよびプロジェクトペギングは、繰返生産では無効です。

住所

アドレス関連の完全な詳細セットには、郵便住所または電話、ファックスおよびテレックスの番号、Eメール、インターネットのアドレス、課税目的の識別情報、および工順情報が含まれます。

計画在庫日

商品の移送先倉庫への到着予定日

設置グループ

同じロケーションで、同じ取引先が所有する一連のシリアル番号付品目。シリアル番号付品目を設置グループに集めることで、まとめてメンテナンスすることができます。

購買元取引先

商品またはサービスのオーダ先の取引先。これは通常発注先の販売部署になります。この定義には、デフォルト価格と値引合意、購買オーダのデフォルト、受渡条件、関連する出荷元と請求元の取引先が含まれます。

同義語: 発注先

カレンダーコード

カレンダーを構築するために使用される作業可能日のリスト

カレンダー例外

カレンダーコード/利用性タイプの組合せごとに例外が定義された周期的な日付のセット

例

たとえば、毎月の最終金曜日を非稼働日にします。この例外をカレンダー作業時間の更新 (tcccp0226m000) セッションで使用して、カレンダー作業時間を生成します。

カレンダー作業時間

カレンダーテーブル内の計画データを日付別にグループ化する、水平方向のライン (行)

部署

特定のタスクを実行する会社の組織単位。たとえば、販売オフィスまたは購買オフィスなどを示します。部署には、その部署が発行するオーダに関する番号グループが割り当てられます。各部署で発生する会計取引の転記先財務会社は、その部署の企業単位によって判別されます。

期日

支払または領収をすべき期限の日付を指します。

企業単位

部署、ワークセンタ、倉庫、プロジェクトなどのエンティティで構成される、組織の中で財務上独立した部分。企業単位に含まれるエンティティはすべて同一のロジスティック会社に属している必要がありますが、1つのロジスティック会社内に複数の企業単位を作成することはできます。各企業単位は、単一の財務会社にリンクします。

異なる企業単位間でロジスティック取引を実行すると、それらの取引は各企業単位がリンクしている財務会社内に転記されます。企業単位間の内部取引条件を決定するために、関係会社間取引関係を定義できます。企業単位間での請求機能と価格設定機能を使用するには、企業単位を内部取引先にリンクする必要があります。

企業単位を使用すると、取引のパートに応じて、個別の財務会計処理を実行できます。たとえば、同一のロジスティック会社に属していても所在地の国が異なる企業単位を、組織内のパートごとに定義することができます。その場合、各企業単位の会計処理は所在地の国の通貨に基づき、その企業単位にリンクされている財務会社内で実行されます。

親カレンダー

派生階層内で 1 レベル上位にあり、子カレンダーにリンクされるカレンダー。子カレンダーには親カレンダーの特性 (プロパティ) が継承されます。

出荷元取引先

オーダ商品を組織に出荷する取引先。通常、これは発注先の物流センタまたは倉庫を表します。この定義には、商品の入庫先となるデフォルト倉庫、商品を検査するかどうか、運送業者および関連の購買元取引先が含まれます。

同義語: 出荷元発注先

出荷元発注先

次を参照してください: 出荷元取引先 (ページ 41)

SIC

次を参照してください: 統計在庫管理 (ページ 38)

チーム

計画または権限付与の目的で、従業員をグループにまとめる手段。あるチームに役割を割り当てると、その役割に対応する権限はチーム内のすべての従業員に付与されます。

作業時間タイプ

時間間隔のタイプは、月曜日の午前、水曜日の午後、定期点検週末などです。作業時間タイプには、開始時間のデフォルトと終了時間のデフォルトを定義することができます。

パターン時

パターン、時刻、例外を使用して定義される、特定の日付の特定の時間

資材発行

出荷時間、納入時間、数量について予測情報が提供されるスケジュール

一般に、資材発行は計画発行と考えることができます。ただし、資材発行には実際のオーダが含まれる場合があります。

パターンコード

活動パターンの識別に使用されるコード。パターンは、活動を実行したい月や日にちななどの日時を定義します。

期間テーブル

たとえば、月、週などのいくつかの時間単位から成るテーブル

期間は、スケジュールが有効な期間などの、対象期間の定義に使用されます。

計画納期

出荷の納品が計画される日付

スケジュール発行日

出庫パターンによって計算される日時に、非参照スケジュールの場合、次の時点を定義するために使用されます。

- スケジュールラインのクラスタ化
- 購買発行の送付

出荷スケジュール

出荷時間または納入時間、および数量について詳細情報が提供されるスケジュール。出荷スケジュールによってジャストインタイム (JIT) 管理が容易になります。

生産日程計画

繰返生産モジュールにおいて、特定の理由で、かつ原価伝票とリンクされた製品が製造される期間。期間の長さは、ユーザにより定義できます。

原価管理期間

この期間のプロジェクト関連原価および収益が記帳されます。

サービス部署

同じ能力を持つ 1 人または複数の人や、1 台または複数の機械から成る部署。サービスおよびメンテナンス計画用の 1 つの単位と見なすことができます。

時系列オーダポイント (TPOP)

倉庫への時系列による品目の供給を調整するプッシュシステム

倉庫に供給される品目の数量は、次によって決まります。

- 倉庫の有効在庫
- 特定のオーダ範囲内に倉庫への納入が予定されている在庫
- 品目と倉庫に指定された在庫バッファ (必要に応じ現行期間の季節要因に合わせて調整される)

有効在庫に計画在庫を加えたものが発注点を下回る場合、倉庫の在庫が補充されます。

略字: 時系列オーダポイント

次を参照してください: 在庫バッファ

索引

設定

カレンダー, 11, 22, 23
期間, 33

概要

カレンダー, 19
シフト, 19

構造

構造, 22

会社, 35

カレンダー, 7, 9, 25, 35

概要, 19
効率係数, 27
生産能力, 28
設定, 22, 23
非利用性, 21
利用性タイプ, 20
例外, 11

定義

例外, 11

従業員, 35

割当, 35

販売請求書, 35

購買請求書, 35

使用

パターン, 16

リベート, 36

能力利用率, 36

効率係数, 36

カレンダー, 27

計画オーダ, 36

シナリオ, 36

固定納入パターン, 36

倉庫, 36

リードタイム, 37

例外

使用方法, 11

設定, 11

倉庫オーダ, 37

発注先, 40

購買スケジュール, 37

販売業者管理在庫 (VMI), 37

利用性タイプ, 20, 38

マスク, 38

ワークセンタ, 38

統計在庫管理, 38

時系列オーダポイント, 43

期間, 7, 38

を使用するには, 34

設定, 33

CCP モジュール, 9

カレンダーおよび期間, 9

パターン, 38

ローリング周期, 12

使用, 16

設定, 15

ローリング周期, 12

周期, 38

ローリング, 12

シフト, 39

概要, 19

生産能力, 39

カレンダー, 28

週労働時間, 39

非利用性

カレンダー, 21

外部パッケージ, 31

Open Plan, 31

Microsoft Project, 31

カレンダーの統合, 31

カレンダー統合, 31

取引先, 39

手数料, 39

超過時間, 40

繰返生産, 40

住所, 40

計画入庫日, 40

設置グループ, 40

購買元取引先, 40

カレンダーコード, 40

カレンダー例外, 41

カレンダー作業時間, 41

部署, 41

期日, 41

企業単位, 41

親カレンダー, 41
出荷元取引先, 41
出荷元発注先, 41
SIC, 38
チーム, 42
作業時間タイプ, 42
パターン時, 42
資材発行, 42
パターンコード, 42
期間テーブル, 42
計画納期, 42
スケジュール発行日, 42
出荷スケジュール, 43
生産日程計画, 43
原価管理期間, 43
サービス部署, 43
時系列オーダーポイント (TPOP), 43
